SYGN HOUSE 2026.05

ヘルメット取付資料

B+COM 7X EVO | 7X

＜取付方法は 7X EVO / 7X 共通です。本資料の写真は全て 7X EVO を使用しています。＞

OGK KABUTO　EXCEED-2

取付前の準備

1.　取付準備

OGK KABUTO ヘルメット「EXCEED-2」の B+COM 取付方法をご紹介します。

2.　B+COM の準備

B+COM1 キット分を用意します。

3.　パッド取外し

ヘルメットのチークパッドとイヤーカップを取外します。

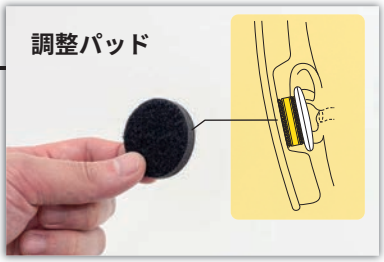
※内装の脱着に関しては、ヘルメットの取扱説明書をご参照ください。
※内装は KAMUI-5 のものですが同様です。

スピーカーの取付

4.　調整パッドの活用

耳とスピーカーの隙間を調整することで、本来の音量、音質が得られます。

※調整パッドをご使用してください。
　耳が押されて痛い場合は外してください。

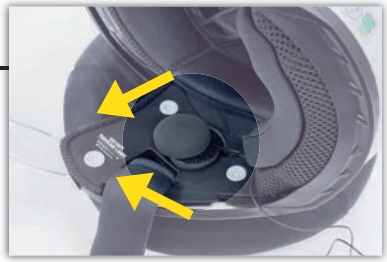


5.　面ファスナーの活用

イヤーホール部に取付けられている面ファスナーで取付けは可能ですが、固定力が不足する場合は、「スピーカー固定用面ファスナー」の使用してください。

6.　右側スピーカー取付け

スピーカーを取付けます。イヤースペースにそのまま合わせるのではなく、**できる限りヘルメット前方、チンストラップの根元側へ寄せる**のがコツです。



7.　スピーカー配線 1

ヘルメット後方右側のホックを外し、配線をホックの内側に通します。

8.　スピーカー配線 2

ヘルメット後方左側のホックを外し、配線をホックの内側に通します。

9.　左側スピーカー取付け

スピーカーの左耳側を取付けます。

ハイブリッドアームマイクの取付け

10. マイクスポンジ取付け

マイクスポンジを装着します。
※マイクスポンジは必ず取付けてご使用ください。風切り音を軽減します。
※マイク根本の突起がある面が集音面です。

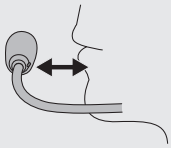
11. 貼付け位置の確認

マイク用面ファスナー、マイクを仮置きして貼付け位置を決定します。
マイクとホックが近い場合、ホックが外れやすくなる恐れがあります。

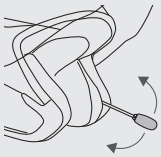
12. マイク取付け

マイク用面ファスナーを貼付け後、マイクをヘルメットに
取付けます。

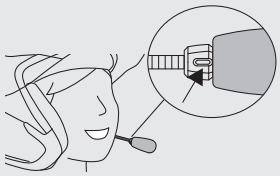
マイク取付けの
注意点



・マイクは1～2cm離れた
ところに設置



・口元に合わせる際は無理に曲げたり
引っ張ったりしないようにしてください。
落下の原因となります。



・マイクの突起を口元と
向い合わせてください。

マグネットクレードルの組立て

EX1. マグネットクレードルの用意

マグネットクレードル本体、保護ラバー、
ワイヤークリップを用意します。
組立にはドライバー No.1 が必要になります。

EX2. ワイヤークリップホルダー取外し 1

ドライバーを使用して、ワイヤークリップホルダーを
固定しているネジを 1 箇所外します。

EX3. ワイヤークリップホルダー取外し 2

ワイヤークリップホルダーを取外します。

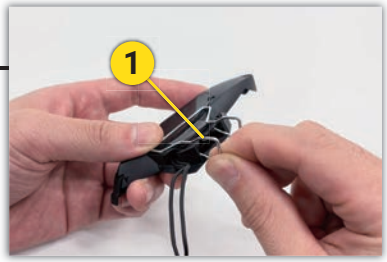
EX4. 保護ラバー貼付け

貼付部の角に合わせながら、保護ラバーの大小をそれぞれ
貼付けます。

※貼付ける前に、パーツクリーナーなどで貼付箇所を脱脂してください。

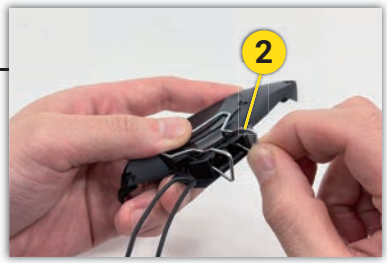
EX5. ワイヤークリップ差込み 1

ワイヤークリップの①側をヘルメット後方側の穴に
差込みます。



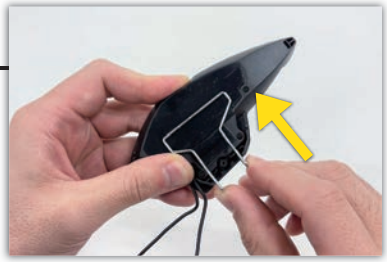
EX6. ワイヤークリップ差込み 2

ワイヤークリップの②側をヘルメット前方側の穴に
差込みます。



EX7. ワイヤークリップ差込み 3

①と②を同時に押込みます。



EX8. ワイヤークリップホルダー固定

ワイヤークリップホルダーを取付け、ネジを締めて固定します。

EX9. 完成

ワイヤークリップホルダーが浮いていたり、
ガタつきがないか確認してください。

マグネットクレードルの取付け

12. マグネットクレードル取付け 1

帽体の左側面に、ベースプレートを斜めに差込みます。

13. マグネットクレードル取付け 2

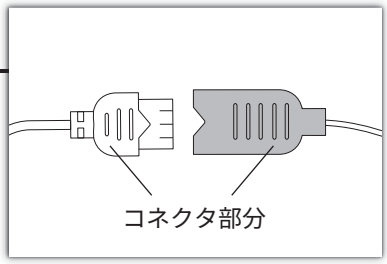
差込んだベースプレートを回転させ、ヘルメットのフチに
当たるまで奥に押し込みます。

配線方法

14. スピーカー、マイクコネクタの接続

コネクタの端子の凹凸の向きに注意して、
それぞれのスピーカー、マイククネクタを接続します。

※コネクタを接続する際はケーブルを引っ張らず、コネクタ部分を
持って抜き差しを行ってください。



15. チークパッド取付け 1

各配線に無理な負担がかかったり、噛み込んだりしないよう
注意し、左右それぞれチークパッドを差込みます。

16. チークパッド取付け 2

ケーブルをホックで挟み込んだり、折れたりしないよう注意し、
ホックをとめます。

本体の取付け

17. 本体ユニットの取付け

本体を取付けて完成です。

※取付け後は本体とクレードルの間に隙間やがたつきがないことを
確認して下さい。